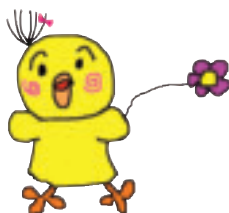


幼児期の 「個別の指導計画」を作ろう

個別の指導計画のメリット

- ① 新しい考え方に気付ける！
- ② 自分の保育に共感してもらえる！
- ③ 保育者間の連携がスムーズになる！

さっそく、作成から
始めてみましょう♪



・・・と、そのまえに

3つの基本チェック

- ☒ **方向目標**
⇒ 一定期間内に到達を目指す達成目標になっていませんか？
- ☒ **遊びを通して総合的に**
⇒ 自発的な遊びを通して、諸能力を発達させていますか？
- ☒ **「基礎」を培う**
⇒ 目に見える成果ばかりを子どもに求めていますか？



障害のある子どももない子どもも、幼稚園・こども園・保育所において、幼児教育を等しく受けています。幼児教育の機能を十分に生かして子どもを育てていくために、上記の考えから離れないようにすることが大切です。

Go next





県の参考様式に基づいて、たかちゃんの「個別の指導計画」を作成してみました。Step1 から Step2 までの流れを示します。各園の様式は様々だと思いますが、「個別の指導計画」作成に関する基本的な流れを示しました。

Step 1

子どもをまるごと捉える

診断名、一般的な障害特性などだけで子どもを捉えようとすると、子どもの一面しか見えてきません。その子をいろいろな角度から見て、まるごと捉えていきます。

①エピソードを集める

様々な場面で、「最近変わってきたな」「どうしてこんなことするのか」などと感じたエピソードを記録しておきましょう。

例えば下のような表を作成することも考えられます。

	保育室	保育室以外
一斉的な活動	体を動かす活動は、保育者の支えによって参加するが、途中でやめたり、また参加したりする。	運動会のリレーの練習で、わざと転んで、その転ぶ感覚を楽しんでいる。
自由遊び	人形遊びが好きで、ブロックで家を作り、自分なりにイメージをわかせて遊ぶ。	友達が追いかけてくると、近くで同じようにやってみる。
生活場面	朝の気分で、自分から身支度をしたり、しなかったりする。	ランチルームで、食事が終わると歩き回る。お気に入りのいすに座って周りを眺めている。



周囲の状況が変わると、子どもは、いろいろな姿を見せるのね。

②子どもの思いを押し量る

子どもの姿について「どうしてこうするのだろう？」と問い直し、その姿を生み出す子どもの思いを押し量ります。その際、子どもの姿を肯定的に見ると、興味・関心や伸びようとしていることが見えてきます。



たかちゃんのエピソード

ランチルームで、食事が終わると歩き回る。

そうか！やる事がなくなって次にやることを探していたんだ！自分から楽しみを見付けて活動したいという思いがあるのね。



③観点別に整理する

様式上に観点がある場合は、その観点に従って整理します。特に観点が示されていない場合、自分なりの観点をもつとよいでしょう。

(観点例) ※参考までに別紙【記入例1】上に示してみました。

- ・お気に入りの遊びや遊び方は？ → **A**
- ・人との関わりは？ → **B**
- ・生活の仕方は？ → **C**

Step 2

育てていく方向性を見出す

何かをできるようにさせるのではなく、**発達を見通し、今、その子にとって必要な経験**を考えます。将来、友達と一緒に遊べるようになるために、今は「一人でじっくり遊ぶ」というねらいを立てることもあります。

①発達を見通して、必要な経験を考える

園の教育課程や全体的な計画に照らし合わせて、発達の見通しをもちながら、今、どのような経験をするのが大切なのかを考えましょう。



たかちゃんのエピソード

- ・人形遊びをしているときは自分の世界に浸っている。
- ・友達が使っているものを取り、楽しそうに遊んでいる。

たかちゃんに育ってきているものは？

好きな遊びを思う存分楽しみ、満足感を得ていることが情緒の安定につながっているみたい。あと、友達のしていることも見えてきているわ。



今、必要な経験は？

友達と一緒に遊ぶとき、自分の思いをもって遊ぶことは大切なことだから、たかちゃんのやりたい遊びは大切にしよう！
そして、友達のしていることが意識の中に入ってきたのなら、友達と共にいる心地よさを感じさせてあげたいな。



②ねらいを立てる

5領域のねらいを視点にします。経験してほしいことは、たくさんあると思いますが、その中で中心的なものを3つ程度に絞ると日々の保育で重きを置きやすく、保育者間で共有しやすくなります。



友達と直接関わることをねらいにするのは、まだ早いかな。やりたいこともはっきりしてきたことだし、今は、**やりたいことを十分に楽しみながら友達の中にいることが大切な。**

(よく使われる「ねらい」の文末表現)

～で遊ぶ	～を楽しむ	～を味わう
～をしようとする	～を試みる	～を感じる
～に親しむ	～する楽しみを感じる	～の楽しさを味わう

Step4 は、別紙【記入例1】の「実態」欄から「評価」欄にそれぞれ対応しています。
ので適宜読み替えて御活用ください。

Step 3 具体的な指導方法を考える

子どもが興味・関心に基づき自発的に遊ぶことは、それ自体が目的であり、幼児期特有の学習です。また、幼児期は障害の有無にかかわらず諸能力が相互に関連し合い、総合的に発達していきます。そのことを念頭に置いて、ねらいに向かって、その子の**周りの状況をどのように整えればよいか**考えます。

①一人一人の興味・関心を探る

園は集団で学ぶ場です。対象の子どもだけではなく一人一人の興味・関心を探り、ねらいに向かって保育の方針を考えます。

(たかちゃんの興味・関心)

- ・追いかけて
- ・人形遊び
- ・くすぐりっこ
- ・友達の遊び

(クラスの子の興味・関心)

- ・運動会
- ・追いかけて
- ・ブロック
- ・リレーごっこ
- など

(保育の方針)

たかちゃんがやりたいことをやりながら、友達と関わってしまうような場面をつくる。

たかちゃんのやりたいことの中で環境として設定しておくものはどれだろう？友達との接点生まれそうな遊びはなんだろう？

②環境の構成や保育者の援助を考える

もの、人など、どういう状況をつくるのが教育的価値があるのか、また保育者のどのような働きかけが教育的効果があるのかを考えます。

環境の構成

- ・たかちゃんのお気に入りのものは複数準備し、興味をもった子が同じものを使えるようにしておく。
- ・たかちゃんが落ち着ける場を友達のしていることが見える場所につくっておく。

など

保育者の援助

- ・たかちゃんと言葉や身振りでやりとりをしながら、周りの友達も巻き込んでいく。
- ・たかちゃんが友達と関わっているときは遠くから見守る。

など

このようなことはありませんか？

みんなと同じように折り紙をさせてあげたくて、となりにピットリくっついて、手伝いながらやらせてあげちゃう・・・

みんなと同じことをさせるよりも、たかちゃんが、自分からやりたいと思ってやるのが大切だと思うわ。

たかちゃんの思いを大切にしながら友達とつないでいったら、友達の真似をしたくて、自分から折り紙に挑戦し始めたのよ。

Step 4 子どもの育ちと指導を振り返る

幼児教育における評価は、一定の基準を設け、達成度を図る評価ではありません。子どもの姿の変容を捉え、**何が育ったのか、なぜ育ったのか**を考えます。

①変容した姿を捉える

「できるようになったこと」だけではなく、子どもの姿がどのように変容したのかを捉えてみましょう。



あら？前より友達へのスキンシップが過剰になってしまったわ。

②何が育ったのかを考える

姿の変容だけを見ると、後戻りしてしまったように思えることもあるかもしれません。しかし、子どもの内面に目を向けると子どもの育ちが見えてきます。



友達と直接関わりたいという思いが強くなってきているのよね。スキンシップの変化は、その表れかな。

③指導を振り返る

環境の構成や保育者の援助を振り返り、どのような状況がその子の変容を生み出したのかを考えてみましょう。

環境の構成

- ・座席を保育室の一番奥から廊下側に変えて、たかちゃんが自分の意思で自由に入りできるようにしたこと。
- ・お気に入りの場を集団の様子が見えるところに設定したので、クラス全体の雰囲気を感じられるようになったこと。

保育者の援助

- ・たかちゃんが思うままに行動することを尊重したことで、意思がはっきりしてきたこと。
- ・たかちゃんが友達と関わっているときは近くにいかないようにしたので、たかちゃんの方法で友達とつながれるようになったこと。

④今後の指導の方向性を決める

教育課程や全体的な計画に照らし合わせながら、今後どのような方向に育てていくか決めましょう。



今後はたかちゃんの興味のある遊びに、周囲の子を誘ってみようかな。友達との接点を意図的につくり、直接的な関わりが生まれるように環境を工夫していきたいな。



個別の指導計画

Q&A



Q 診断のある子だけ書けばよいのでしょうか？



A 診断のない子に個別の指導計画を作成することは、特別視につながるという声もありますが、本来保育は、一人一人の発達の課題に応じて行われるものです。保育者の頭の中にある一人一人の育ちの中で、「特にこの子はみんなと理解し、育ちを共有していきたいな」という場合には、積極的に作成していきましょう。

Q 様式は決まっていますか？



A 決まった様式はありません。園で作成したもの、市・町で統一して使っているものなど、様々なものがあると思います。どのような様式であれ、幼児教育の基本をベースにすることが大切です。そして、単なる事務作業にせず、一人の子どもの育ちに思いを馳せ、みんなで育ちを応援していける夢のある指導計画であってほしいです。なお、栃木県では参考となる様式を示しています（下記参照）ので、必要な際は御活用ください。

Q 保護者にも見せた方がよいですか？



A できれば、計画の初めから保護者と十分な話し合いを行い、育ちの方向性を共有していけることが望ましいです。家庭との連続性を踏まえ、保護者の願いも聞きながら園での保育とすりあわせていくことが必要です。

しかし実際は、保護者の気持ちは揺れ動いており、個別の指導計画のことに触れるのは難しいことも多いと思います。まずは、園での様子を丁寧に伝え、時に、家庭での様子を聞くなどして、保護者と共に、子どもを多面的に捉えるところから始めてみましょう。

Q 計画通りにいかないことが多いのですが・・・



A 保育は、「予測」と「見直し」の連続です。実際の子どもの姿とずれてしまうことは多々あるでしょう。大切なことは、そのずれを分析し、新たな道を探ることです。積極的に見直しを重ねることは、子ども理解が深まることでもあります。その際は、個別の指導計画を上書きや朱書き修正していきましょう。また、修正した記録の蓄積は、子どもの成長の過程そのものであり、貴重な引継ぎの資料となります。

なお、保育は「個」と「集団」の両輪で動いています。豊かな集団は、個を大きく成長させる力を持っています。「個」のことを記す個別の指導計画ではありますが、常に「集団」の力を意識していきましょう。

発行者 栃木県幼児教育センター 令和2年3月発行

〒320-0002 宇都宮市瓦谷町 1070

TEL: 028-665-7215

作成協力園 認定こども園黒羽幼稚園

監修 神長美津子（國學院大學人間開発学部教授）

久保山茂樹（国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員）

栃木県の【参考様式】
【記入例】【記入の方法】
は、こちらから
ダウンロードできます。



令和〇〇年度 個別の教育支援計画
〔個別の指導計画〕

令和〇〇年〇月〇〇日記入

ふりがな 氏 名	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇 〇〇	性 別	〇	クラス (年齢)	うめ組 (4歳児)	記入者 (所属)	〇〇 〇〇 (担任)
-------------	--------------------	--------	---	-------------	--------------	-------------	---------------

(9月1日～12月21日)

	Step 1 実 態	Step 2 ねらい	Step 3 環境の構成と援助	Step 4 評 価
遊 び	○気に入った場所での遊びを繰り返すなど、やりたいことがはっきりしてきている。 ○周りの子が使っているものに興味をもつようになり、ものの取り合いなどのトラブルが目立ってきた。	○自分のやりたいことを十分に楽しみながら、友達の中にいる。	○複数の同じものを用意し、一人での遊びを見守りながら、周りの子との関わりが生まれるようにする。	○興味があるものを通して、同じ場で遊ぶ子のしていることや表情に目が向くようになってきた。
生 活	○「参った」「参ってない」の言葉のやりとりでくすぐり遊びを楽しむなど、保育者との簡単なやりとり遊びに楽しさを感じている。	○遊びや生活の中で、保育者とのやりとりを楽しむ。	○興味のある質問を遊びと生活の中に取り入れ、言葉以外のやりとりも織り交ぜる。	○スキンシップも交えたやりとりに楽しさを感じ、自分から言葉で保育者を誘ってることが増えた。
	○全体が次の活動になったタイミングで保育者が言葉かけをすると動き出せることが多く、クラスの子の動きを見て活動の変化が分かるようになってきている。	○全体の状況や雰囲気を感じながら、自分なりに考えて行動しようとする。	○一人で遊びたがるお気に入りの場所から集団の様子がよく見えるようにする。 ○興味のある活動を探り、それを全体の活動に取り入れる。	○全体の活動を見ながら気持ちを切り替える時間があることで、安心して自分なりのペースで、興味のある活動に自分から参加するようになってきた。

診断名等	・自閉症の診断（〇〇病院・令和〇年〇月）
------	----------------------

合理的配慮	教育内容・方法	・特になし
	支援体制	・定期通所している〇〇〇園と学期に1回ケース会議をもつ。 ・災害時の避難の際は、必ず保育者1名がそばにつくようにする。
	施設・設備	・クールダウン時の場所を〇〇室にし、基本的に空けておく。

上記計画について確認しました。

令和〇〇年〇月〇〇日 保護者名（ 〇〇 〇〇 ）

幼児期

令和〇〇年度 個別の教育支援計画
〔個別の指導計画〕

令和〇〇年〇月〇〇日記入

ふりがな 氏 名	〇〇〇〇 〇〇〇〇 〇〇 〇〇	性 別	〇	クラス (年齢)	うめ組 (4歳児)	記入者 (所属)	〇〇 〇〇 (担任)
-------------	--------------------	--------	---	-------------	--------------	-------------	---------------

(1月8日～3月20日)

	実 態	ねらい	環境の構成と援助	評 価
遊 び ・ 生 活	○無意識ではあるが、友達がしていることを感じられる位置で遊んでいる。	○友達のしていることを感じながら、自分のやりたいことを十分に楽しむ。	○友達のしていることに興味をもった瞬間を捉えて、保育者も同じ行動をしながら楽しさを共感する。	○友達への興味が増し、友達と直接関わって遊びたいという思いが強くなった。興味がある遊びの中で友達との関わりを増やしながら、本人のよさを周囲に伝えていきたい。
	○鬼ごっこの鬼決めで足を出す、友達が走っている隣で同じスピードで走ってみるなど、友達と同じことをしようとする瞬間が増えた。	○友達の真似をしながら遊びを楽しむ。		
	○保育者に対して「こうしてほしい」「こうしたい」という要望を表すような表情や仕草をすることがある。	○要望を自分なりの方法で保育者に伝えようとする。	○本人からの要望を一度言葉にして確認しながら受け止めるようにする。	○安心して自分の要求を言葉で保育者に伝えるようになった。また、友達に伝えようとする姿も見られた。
	○クラス全体の活動では静かになる、楽しく踊る等、クラス全体の雰囲気が変わるとき、保育者からの言葉かけがなくても自分から参加しようとしている。	○自分の意思でクラス全体の活動に関わろうとする。	○本人が心を動かして参加する活動を、クラス全体の活動に位置付ける。また、座席を真ん中にする、並び順は一番前にするなど、今の状況を意識しながら行動できるようにする。	○活動内容が明確なものは、やりたいという自分の意思をもって活動に参加するようになった。自分なりの見通しをもちつつある。

診断名等	・自閉症の診断（〇〇病院・令和〇年〇月）
------	----------------------

合理的 配慮	教育内容・方法	・特になし
	支援体制	・定期通所している〇〇〇園と学期に1回ケース会議をもつ。 ・災害時の避難の際は、必ず保育者1名がそばにつくようにする。 ・年長進級時に、クラスの保護者に障害について話す機会を設ける。
	施設・設備	・クールダウン時の場所を〇〇室にし、基本的に空けておく。

上記計画について確認しました。

令和〇〇年〇月〇〇日 保護者名（ 〇〇 〇〇 ）